



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月12日

上場会社名 株式会社モスフードサービス 上場取引所 東
 コード番号 8153 URL <https://www.mos.co.jp/company/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 栄輔
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 川越 勉 (TEL) 03-5487-7371
 経営サポート本部長
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	19,388	4.0	226	△73.6	321	△63.1	305	△59.9
2022年3月期第1四半期	18,644	16.3	857	—	872	—	760	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 811百万円(△17.0%) 2022年3月期第1四半期 977百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	9.90	—
2022年3月期第1四半期	24.66	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	67,991	48,890	71.5
2022年3月期	69,602	48,576	69.4

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 48,628百万円 2022年3月期 48,323百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	12.00	—	16.00	28.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	14.00	—	14.00	28.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	85,000	8.4	3,300	△5.0	3,400	△6.4	2,000	△41.5
								64.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期1Q	32,009,910株	2022年3月期	32,009,910株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	1,173,280株	2022年3月期	1,174,349株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期1Q	30,835,942株	2022年3月期1Q	30,833,329株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中、感染者数の減少により景気回復の動きが期待される一方、世界的な資源の高騰や急激な円安の進行による原材料費や物流費の高騰など、外食産業は引き続き厳しい経営環境に置かれています。そのような環境の中、当社グループでは、全社ミッションである「世界で認められる日本のおいしさとおもてなしを確立する」の実現を目指し、「Challenge & Support」をスローガンに、中期経営計画(2022-2024)を開始いたしました。

当社グループにおいては、お客様と従業員の安全を第一に感染拡大の防止に取り組み、新しい生活様式や地域社会に寄り添った商品やサービスを提供するなど、各施策に取り組んでまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高が193億88百万円(前年同四半期比4.0%増)、営業利益2億26百万円(同73.6%減)、経常利益3億21百万円(同63.1%減)となり、最終損益は主に新型コロナウイルス感染症に係る助成金収入2億6百万円、税金費用2億22百万円等を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益3億5百万円(同59.9%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

<国内モスバーガー事業>

国内モスバーガー事業においては、主として、以下の施策を展開いたしました。

① 商品施策

当第1四半期連結会計期間においては、野菜がおいしい春の時期に合わせてこだわりの生野菜をたっぷりを使用した「クリームチーズテリヤキバーガー」の販売に加え、当社が今年で50周年を迎え、改めて定番商品に目を向けていただきたいという思いから、「テリヤキバーガー」をリニューアル販売いたしました。「テリヤキバーガー」は49年もの間、和風バーガーの先駆けとして、多くのお客様にご支持いただいているロングラン商品です。5月には日本人に人気の中華料理「海老チリ」をモス流にアレンジした商品「海老チリ風バーガー」とリニューアルした定番商品の「海老カツバーガー」を販売、幅広い世代の方にお楽しみいただきました。また、『夜モス』として、15時からの限定メニュー「夜モスライスバーガー よくばり天 金目鯛とかきあげ(塩だれ)」と「夜モスライスバーガー よくばり焼肉」を販売し、ご好評をいただいております。

② 多様化するニーズへの対応

全国一律、画一的ではなく、商圈や立地、客層、多様化するお客様の利用動機に合わせて柔軟に商品やサービス、店舗形態を変えていく取り組みを推進いたしました。住宅街、繁華街においてはカフェ需要対応の「モスバーガー&カフェ」、都市部や駅前などの立地には20坪程度で出店可能な「小型店」や「テイクアウト専門店」、出店していない住宅地域やイベント会場などの隙間立地へは機動力を生かした「キッチンカー」での出店など、社会環境の変化に合わせた店舗形態の多様化を推進してまいります。

③ マーケティング施策

当社ではSNSなどのデジタルメディアを活用した販売促進に取り組み、ツイッターのフォロワー数は144万人を超え、WEB会員数は493万人、スマホアプリは546万ダウンロードとなりました。若年層などをターゲットとして、SNSでの盛り上がりを狙い、夜限定商品「夜モスライスバーガー」のWEB動画『ヨルモス』を作成し、反響をいただきました。今後もデジタルを活用したマーケティングコミュニケーションの推進に取り組み、マスメディアとの相乗効果を図ってまいります。

また、お子さま向けセットのおもちゃやオリジナルグッズなどで世界中の多くのファンから親しまれているキャラクター「星のカービィ」とコラボレーションすることで、ご家族連れのお客様のご利用につながりました。

④ デジタル化の推進

ネット注文、予約販売、デジタルギフト、個店ごとの顧客管理などのデジタルを活かした顧客接点の強化や、フルセルフレジなど新たな体験価値を提供しております。

⑤ 新たな事業展開

マーチャンダイジング事業では、モスブランドを活かした他社とのコラボ商品や生活雑貨を展開いたしました。毎月29日の“肉の日”は当社と同じく、今年50周年を迎えた新日本プロレスのオカダ・カズチカ選手が監修した「きんにくにくバーガー」を販売。5月には、「ユナイテッドアローズ グリーンレーベル リラクシン

グ」とコラボレーションしたキッズ向け商品第2弾を販売いたしました。

前中期経営計画は、既存店の強化に軸足を置き出店を抑制しておりましたが、2022年度を初年度とする中期経営計画では、出店を加速し店舗数の増加を実現してまいります。国内モスバーガー事業の店舗数につきましては、当第1四半期連結累計期間においては出店6店舗に対し閉店は3店舗で、当第1四半期末の店舗数は1,254店舗（前連結会計年度末比3店舗増）となりました。

以上の事業活動の結果、国内モスバーガー事業の売上高は153億60百万円（前年同四半期比1.8%増）となりましたが、営業利益については原材料費や物流費の高騰などの影響を受けて7億81百万円（前年同四半期比42.0%減）となりました。

<海外事業>

海外事業においては、各国・地域ごとの施策を展開いたしました。

なお、海外事業に属する関係会社の当第1四半期連結会計期間は2022年1月から3月であるため、同期間の情報を記載しております。

① 台湾

新型コロナウイルス感染症の影響で、特に空港や駅の店舗は観光客減少により厳しい状況が続いておりますが、テイクアウトとデリバリーの売上が好調に推移いたしました。2月の春節ではギフトの需要が伸びたことも寄与し、売上計画を達成いたしました。3月にはスーパー大麦「バーリーマックス」を使用したライスバーガーを導入し、新しい健康的な食の提案をしております。

② シンガポール、香港

1月以降、特に香港では、新型コロナウイルス感染症がまん延し、一部店舗で時短営業や休業などの影響が出ました。遠出をしたい、日本を訪れたいというお客様に向けて、店舗を桜の装飾品で飾りつけ、日本を想起させる商品を販売する「ジャパンフェス」をシンガポールと香港で開催いたしました。香港では日本産品で開発したJFOODO（日本食品海外プロモーションセンター）とのコラボ『アキタコマチライスバーガー』企画として、日本発ブランドを再訴求するキャンペーンを実施いたしました。

③ インドネシア、オーストラリア、中国、韓国

各国の現地に根差した店舗フォーマットを確立するため、国ごとにマーケットニーズを調査し、様々な施策のテスト・検証・改善に取り組んでおります。

④ タイ、フィリピン、ベトナム

タイは、デリバリー強化を中心に売上を伸ばし、既存店売上前年比で前年を上回りました。フィリピンは、段階的に政府による外食規制が緩和され、営業時間の調整や宅配強化により、3月には回復傾向となりました。ベトナムの1号店出店については新型コロナウイルス感染症の影響により遅れが生じております。

海外事業の店舗数（2022年3月末時点）につきましては、台湾303店舗（前連結会計年度末（2021年12月末比）1店舗増）、シンガポール53店舗（同1店舗減）、香港39店舗（同増減なし）、タイ21店舗（同増減なし）、インドネシア2店舗（同増減なし）、中国（福建省・江蘇省・上海市）7店舗（同1店舗減）、オーストラリア4店舗（同増減なし）、韓国14店舗（同増減なし）、フィリピン6店舗（同増減なし）となり、海外全体の当期末の店舗数は449店舗（同1店舗減）となりました。

以上の事業活動の結果、海外事業の売上高は33億67百万円（前年同四半期比11.1%増）、営業損失は68百万円（前年同四半期は営業利益98百万円）となりました。

<その他飲食事業>

その他飲食事業では、不採算店を整理し、アフターコロナでも採算の見込める店舗を残して各種施策に取り組んでおります。今後も商品力の強化、サービス品質の向上、テイクアウトやデリバリーの拡大など運営力をさらに磨き上げ、成長事業に育ててまいります。また、紅茶専門店のマザーリーフや国内モスバーガー店舗で使用している紅茶の茶葉を直輸入する事業を開始いたしました。これにより、商品原価の改善や、他社への卸売販売などを進めてまいります。

各業態の当第1四半期末の店舗数は、「マザーリーフ」事業合計で14店舗、株式会社ダスキンとのコラボレー

ションショップ「モスト」事業1店舗、「モスプレミアム」事業2店舗、「ミアクッチーナ」事業2店舗、「カフェ 山と海と太陽」事業1店舗、「あえん」事業5店舗、「シェフズブイ」事業1店舗となり、その他飲食事業の合計で26店舗（前連結会計年度末比 増減なし）となりました。

以上の事業活動の結果、その他飲食事業の売上高は4億41百万円(前年同四半期比37.7%増)、営業損失は67百万円(前年同四半期比59百万円の損失減)となりました。

<その他の事業>

連結子会社の株式会社エム・エイチ・エスは、衛生、株式会社モスクレジットは、金融、保険、設備レンタル、株式会社モスシャインは、グループ内業務のアウトソーシングなどにより主に国内モスバーガー事業やその他飲食事業を支援しております。

これらによるその他の事業の売上高は2億19百万円(前年同四半期比4.7%増)、営業利益は1億51百万円(前年同四半期比184.1%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ16億11百万円減少し、679億91百万円となりました。流動資産は前連結会計年度末に比べ14億74百万円減少し、固定資産は1億36百万円減少しております。流動資産が減少した主な理由は、季節変動により棚卸資産が増加した一方で、納税や賞与の支払い等によって現金及び預金が減少したことによるものであります。固定資産が減少した主な理由は、繰延税金資産が減少したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ19億26百万円減少し、191億円となりました。この減少の主な理由は、未払法人税等、未払金及び賞与引当金の減少によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ3億14百万円増加し、488億90百万円となりました。その結果、自己資本比率は前連結会計年度末69.4%から当第1四半期連結会計期間末は71.5%と2.1%増加しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月13日発表の通期連結業績予想から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,757	17,681
受取手形、売掛金及び契約資産	5,518	5,254
有価証券	932	931
商品及び製品	3,377	4,080
原材料及び貯蔵品	379	528
その他	2,950	2,964
貸倒引当金	△8	△7
流動資産合計	32,908	31,433
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	17,373	18,342
減価償却累計額	△9,822	△10,684
建物及び構築物(純額)	7,551	7,658
機械装置及び運搬具	290	298
減価償却累計額	△163	△184
機械装置及び運搬具(純額)	126	114
工具、器具及び備品	9,300	9,428
減価償却累計額	△7,006	△7,178
工具、器具及び備品(純額)	2,293	2,250
土地	1,019	1,025
建設仮勘定	147	170
有形固定資産合計	11,138	11,219
無形固定資産		
その他	2,163	2,179
無形固定資産合計	2,163	2,179
投資その他の資産		
投資有価証券	14,031	13,941
長期貸付金	1,462	1,473
差入保証金	4,735	4,762
繰延税金資産	447	288
その他	2,820	2,812
貸倒引当金	△58	△57
投資損失引当金	△44	△62
投資その他の資産合計	23,393	23,158
固定資産合計	36,694	36,557
資産合計	69,602	67,991

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,139	5,198
リース債務	1,729	1,836
未払金	4,101	3,410
未払法人税等	1,130	236
賞与引当金	515	255
ポイント引当金	83	78
資産除去債務	57	34
その他	2,868	2,634
流動負債合計	15,625	13,684
固定負債		
長期借入金	38	37
リース債務	2,226	2,208
役員株式給付引当金	—	1
株式給付引当金	185	191
退職給付に係る負債	405	413
資産除去債務	815	835
その他	1,729	1,727
固定負債合計	5,400	5,415
負債合計	21,026	19,100
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,412	11,412
資本剰余金	11,023	11,062
利益剰余金	25,726	25,531
自己株式	△1,747	△1,783
株主資本合計	46,414	46,223
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	959	1,114
為替換算調整勘定	932	1,277
退職給付に係る調整累計額	17	12
その他の包括利益累計額合計	1,908	2,405
非支配株主持分	252	261
純資産合計	48,576	48,890
負債純資産合計	69,602	67,991

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	18,644	19,388
売上原価	9,561	10,311
売上総利益	9,083	9,076
販売費及び一般管理費	8,225	8,850
営業利益	857	226
営業外収益		
受取利息	24	20
受取配当金	23	49
設備賃貸料	54	55
立退料収入	—	55
雑収入	49	72
営業外収益合計	152	252
営業外費用		
支払利息	31	27
設備賃貸費用	47	45
持分法による投資損失	19	53
雑支出	38	30
営業外費用合計	137	157
経常利益	872	321
特別利益		
固定資産売却益	15	51
投資損失引当金戻入額	53	—
助成金収入	200	206
特別利益合計	269	257
特別損失		
固定資産売却損	2	—
固定資産除却損	6	32
減損損失	37	—
投資有価証券評価損	0	0
投資損失引当金繰入額	—	18
特別損失合計	48	50
税金等調整前四半期純利益	1,093	528
法人税、住民税及び事業税	172	132
法人税等調整額	153	89
法人税等合計	326	222
四半期純利益	767	306
非支配株主に帰属する四半期純利益	6	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	760	305

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	767	306
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△260	153
為替換算調整勘定	228	228
退職給付に係る調整額	2	△4
持分法適用会社に対する持分相当額	240	125
その他の包括利益合計	210	504
四半期包括利益	977	811
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	959	802
非支配株主に係る四半期包括利益	18	9

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症に関する主要な仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 モスバーガー 事業	海外事業	その他飲食 事業	その他の 事業	計		
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	15,085	3,029	320	209	18,644	—	18,644
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	21	2	—	331	356	△356	—
計	15,106	3,032	320	541	19,000	△356	18,644
セグメント利益又は損失 (△)	1,346	98	△127	53	1,371	△514	857

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△514百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△504百万円を含んでおります。全社費用の主なものは、提出会社の経営企画・経理部門等の経営管理に係る部門の費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 モスバーガー 事業	海外事業	その他飲食 事業	その他の 事業	計		
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	15,360	3,367	441	219	19,388	—	19,388
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	22	—	6	325	354	△354	—
計	15,382	3,367	448	544	19,742	△354	19,388
セグメント利益又は損失 (△)	781	△68	△67	151	796	△570	226

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△570百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△559百万円を含んでおります。全社費用の主なものは、提出会社の経営企画・経理部門等の経営管理に係る部門の費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。